

1 この科目の構成について

教 科	理 科	科 目	探求化学	単 位	2単位
対象コース	カレッジコース	対象クラス	3年2組（文系）		
使用教科書	数研出版 新編 化学基礎				
使用副教材	第一学習社 セミナー化学基礎 数研出版フォトサイエンス化学図録				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
化学は物質について学ぶ学問である。私たちの生きている世界は物質によって構成されている。これまで人類は物質の性質についての知見を広げ、その知識を生かして文明を発展させてきた。また、物質の性質に対する考慮の不足から人類そのものの命を脅かす問題が生じてきたことも事実である。これから、私たちがより豊かに、より長く発展していくためには物質について、より広く深い知識を身に付けていくことが不可欠である。2年生で学んだ基礎的な物質の性質をもとに、日常生活に潜む化学をより深く知って欲しい。	
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
・化学基礎総復習演習 第一章 物質の構成 第二章 物質の構成粒子 第三章 粒子の結合 第四章 物質量と化学反応式 第五章 酸と塩基 第六章 酸化と還元	
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
(1) 学校 教科書を中心に基本的な問題演習を通して、現象についての見方を説明し、実際に問題解法に結びつける作業を行う。 覚え方・解法のテクニックの提示。また、セミナー化学基礎を題材に問題演習を行う。小テストによる定着の確認。	
(2) 家庭 予習 昨年使用した教科書・数研出版化学基礎準拠ノートに目を通す。 セミナー化学基礎のプロセス・基本例題は必要に応じて活用する。 復習 その日やっつけてつまずいた問題に再度挑戦する。	

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
1. 年間4回実施される定期考査 2. 長期休みに配布する宿題の学習状況 3. 授業時に行う小テストの取り組み 4. ノートの整理状況。 5. 実験などを行った際のレポートの提出状況とその内容。	
評価における定期考査の割合	
60 %	

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
(1) 関心・意欲・態度 授業における板書、演習問題への取り組み、発言が積極的であるか。課題の提出状況とその内容が適当であるか。	
(2) 思考・判断 各分野における重要事項を体系的に位置づけ、様々な現象・実験事実と結びつけ、その仕組みを総合的に考察できるか。	
(3) 技能・表現 基本的な実験器具の取り扱いができるか。実験、観察、授業を通じて考察されることを説明できるか。	
(4) 知識・理解 各分野における重要事項を正しく理解し、一般的な法則性と、その例外を区別できるか	

5 この科目の学習計画について

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知
1	4	化学基礎 総復習演習					
	5	(セミナー化学基礎) 第一章 物質の構成 第二章 物質の構成粒子	・まとめ、プロセスを確認後、ドリル、基本例題、基本問題、重要演習を解く。	●	●	●	●
		第一回考査	ここまでの内容について考査を行う		●		●
	6	第三章 粒子の結合 第四章 物質と化学反応式	・まとめ、プロセスを確認後、ドリル、基本例題、基本問題、重要演習を解く。	●	●	●	●
		第二回考査	ここまでの内容について考査を行う		●		●
2	7	第五章 酸と塩基	・まとめ、プロセスを確認後、ドリル、基本例題、基本問題、重要演習を解く。	●	●	●	●
	8	第六章 酸化と還元					
	9	第三回考査	ここまでの内容について考査を行う		●		●
	10	センター対策演習	大学入試センター試験にむけてマーク問題演習を行う	●	●	●	●
	11	第四回考査	ここまでの内容について考査を行う		●		●
3	12	センター対策演習	大学入試センター試験にむけてマーク問題演習を行う	●	●	●	●
	1						
	2 3						

